



# 森ボラ 通信

第 187 号 2017 年 12 月 20 日発行

NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <http://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸 1 条 1 丁目 9-6 ラルズビル 3F Tel. (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

## トピックス

### ◆多面対策モニタリング調査現地ヒアリング

現在交付を受けて 5 年目の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」(以下「多面対策」)の効果を確認するために行われるモニタリング調査の現地ヒアリングを 11 月 9 日(木)に澄川、有明第二都市環境林で受けました。

林野庁の委託を受けている(公財)日本生態系協会ランドデザイン総合研究所の松浦さんと、北海道の窓口である(公社)北海道森と緑の会の大堀さんが来られ、当会は市山事務局長と樞棒が対応しました。



「多面対策」のモニタリング調査地は会員の協力により澄川に 3 ヶ所(B-3, E-4 区)、有明に 2 ヶ所(南東高台部、ギャップ地)設定し、初回調査及び有明の初年度調査は既に終わっています。

現地ヒアリングでは活動の経緯、活動地の概要、当会の活動状況、モニタリング地の目標・調査方法・数値目標・効果と課題、協力者の有無などについて、事前に送付した確認事項回答に従って行われました。

澄川では活動参加者の作業状況を見て、作業に習熟している様子が見られた、と話をされていました。有明では根まがり竹の状況、ササ侵入率、ギャップ地、シカ食害防止柵などについての説明を求められました。

最後に森づくり作業を進めるモチベーション(動機や意欲)は何か、との問いに「森に少しは役立っていると思いますが、自分の心身の健康には大変役立っています。」と私なりの考えを述べました。間違っていましたらお許し下さい。(文・樞棒、提供写真・大堀さん)

## 活動報告

### ◆幌南小学校藻岩山で自然体験学習

この森は森林管理署と幌南小学校が 2008 年 3 月に「遊々の森」というプランの下で私達協会も支援する形で幌南の森 5 ヶ年の約束がされました。森林での遊び、学習、林業体験の活動の場とするものです。



場所はうさぎ平藻岩山のスキー場のど真ん中の 12ha の広葉樹の森です。当時の渡部校長は子供の隠れ家的な森を希望され、毎年木の名札を付ける樹名板 小鳥の巣箱掛けや木を植えて草を刈る活動 森を歩く散策などが続いています。

今年も 10 月 4 日 4 年生 105 名が「もいわ山とわたしたち」と題して総合的な学習が藻岩山幌南の森で行われました。

寒い一日でしたが子ども達は 9 グループに別れて先輩たち

が植栽した樹木園までの散策では自分達も山に樹を植えたいとの声が聞こえてきました。楽しみ方を見つけ出す名人の子ども達は葉っぱや蔓を手にとってわいわいがやがや・・・20分の散策もあっという間でした。

質問の時間ではほとんどの子ども達が準備して来たのでしょう。聞きたい事が沢山あったようですが残念ながら4名の子どもからの質問で終わりました。酒井さんからは幌南小学校の生徒たちがこの森にどの様に携わって来たかを紹介しました。

「いまゴンドラで登ってきた藻岩山北斜面は豊かな天然記念物の森となっています。しかし今から歩く南斜面は2004年の台風によって木が倒れて裸の山になってしまいました。それで木を植えているいろんな生き物の棲む森にするのが学校と私達森林ボランティアの目標です。

今日訪問する樹木園も隠れ家的に設置し沢山の種類の木があり楽しんでください。」この話を聞いた後輩たちが今の「幌南の森」を好きになる事を願っています。（文・事務局）

## ◆澄川南小 4年生キノコホダ木管理

澄川環境林で4月25日に植菌したホダ木（シイタケ10本、ナメコ9本）の本伏せ体験をしました。当初は6月の本伏せ段階で学校に持ち帰り4年生皆で水やりや天地返しの管理をする予定でした。しかし学校の修復工事のため澄川で預かる事になりました。



夏の間協会員が水やり等の管理をしていましたが、本伏せをして越冬させるために10月26日子どもたち57名の手で林の中に移動しました。このホダ木は来春学校に戻し5年生になった子どもたちが管理し、秋がその次の春の収穫を待ちます。（文・事務局）

## ◆2017年森ボラ研修旅行 白神山地と世界遺産を考える

これまで森ボラでは、島牧のブナ林、奥尻島のブナ林・歌才のブナ林等を訪れ、またセミナーでは森林総研の北村先生にブナについての話を聴く機会を持ってきました。

今回の研修旅行は、これまで開発の手から辛うじて残ったブナの森「白神山地」の風に触れ、



翌日には、縄文時代前期～中期（約5,500～4,000年前）の大きな集落跡地である三内丸山遺跡にも訪れることができました。想像していたよりもスケールの大きな遺跡で、クリの掘立柱は直径1m以上（再現に使われたのはロシア産）もある大きなものでした。縄文時代はブナとミズナラが多い土地でしたが、中でもクリは貴重な樹木で建物の材や食料になるもので栽培もされていたとのこと。また、出土品には北海道の白滝産の黒曜石の石器もあり、当時の流通が如何に広がったのかを知ることが出来ました。

1978年、青森県西目屋村と秋田県八森町（現八峰町）を結ぶ全長28kmの広域基幹林道「春秋林道」の建設が計画されました。両県では別々に自然保護団体が結成され、それぞれ反対運動が展開されました。ところが秋田県が突然、秋田側の粕毛川源流を通る予定の林道ルート、青森県鱒ヶ沢町側の赤石川源流部へ変更しました。工事予定の区域はブナ原生林の核心部で、これを知った赤石川流域の住民は激しく反発しました。

1987年秋、自然保護団体が地元で建設反対の署名運動を展開、全国からの反対署名も含めて13,000通以上に達し、わが国の林政史上、最大規模となりました。これを受けて当時の北村正哉青森県知事が「春秋林道中止」を政治決断しました。この春秋林道の建設中止が1993年の白神山地の世界自然遺産登録への道を開きました。

上記の春秋林道反対活動を行った自然保護団体の一つに弘前の「白神 NGO」という団体がありました。今回ガイドをお願いした土岐さん（当時は弘前の高校教諭）は、白神 NGO の活動メンバーの一人で、退職後も白神山地の保全活動に関わっておられます。

青森県側の白神山地の核心部には伐採の手を免れた大きな面積のブナ林が残されていました。このことが評価され、世界自然遺産に繋がったものと思われます。このエリアは地元の人でも昔からマタギと言われる人々が熊やニホンカモシカ（現在は天然記念物に指定され捕獲禁止）の狩猟や春にはゼンマイなどの山菜採り、秋にはキノコの収穫により生活の糧を得ていました。

しかし、「白神山地」は世界自然遺産に登録された後、同じ様に世界自然遺産登録された、屋久島や知床とは異なり入山禁止・規制をめぐって、行政や住民の間で様々な軋轢を生んできました。

また、今回行くことが出来ませんでした。暗門アクアビレッジから暗門川を 1.5 時間程遡った所に 3 つの滝があります。昨年まで川に沿って遊歩道が整備され、わりと気軽に行くことが出来たのですが、今年からはこの整備が行われなくなったとのこと。その理由は、一昨年遊歩道を歩いていた訪問客が崖上からの落石でケガをするという事故が 2 件あり、訴訟問題になっていることが背景となっている様です。このこともあり、観光客が大幅に減っているという問題も出てきています。

今回訪れたのは、西目屋村から西に入ったマザーツリーと呼ばれるブナの大木がある津軽峠から高倉森経由で暗門アクアビレッジまでの縦走トレッキングを予定していたのですが、この日は雨模様でしたので、津軽峠～高倉森往復のトレッキングに変更しました。今回は世界自然遺産指定地の外際を歩いたわけですが、往復 3 時間の霧模様のブナ林は、晴れた時とはもう一つ違ったしっとりとした空気の中を歩くことが出来ました、この森には樹齢 200～300 年という大きなブナも目立ちましたが若いブナや幼樹も数多くあり、次世代にも繋がる森を感じることが出来ました。

(文・荻田)

## ◆忘年会備忘録

12 月 6・7 日年末恒例の忘年会は岩見沢市北村温泉ホテルで今年の垢を落として来ました。参加者 21 名（男 17 名、女 4 名）はホテルのバスで札幌駅北口を出発。車中で荒船さんの北村町の歴史と温泉の採掘の経緯に耳を傾けましたが、その内容は町の広報担当と思われるぐらい詳しい話でした。



ホテルに着くと塩分 9%源泉かけ流しの湯で一年の疲れを取り早々に幹事部屋で一次会のスタート、そしていい機嫌で呑み放題 2 時間の大宴会が始まり何時ものペースの酒盛りです。アッと云う間の 2 時間のあと、幹事部屋での三次会は 11 時過ぎまで続き楽しいひと時でした。

朝風呂に浸かり昨日の酒も抜け??好天の中一路札幌へ。車窓からは恵庭岳の帽子と駒ヶ岳のおかまそして手稲山頂の鉄塔がクッキリ見え隠れ最高の雪景色でした。お酒やつまみをご提供頂きました荒船、小笠原、加藤、清澤、合田、西野（澄）、矢澤の各氏と全員に银杏を用意して呉れました永田さんに感謝いたします。来年の幹事はくじ引きで加藤さんと柿沼さんに白羽の矢が!!!宜しくお祈りします。(文・荒船、市山)

## ◆昔の道具

ながめま緑の少年団山本事務局長より大鋸をいただき昔の道具 3 点を澄川の第一物置の扉に展示しました。子供たちなど来訪者にも見せてください。(文・酒井)

**大鋸(おが)** = 丸太を縦に挽き厚さの均一な板をつくるために広い。明治時代自衛隊前駅の両側に木挽き小屋があった。

**ヒツ鉈(なた)** = ナタの一種で枝打ちに使われた。

**ガンタ** = 丸太は重いので二人でタイミングを取りながら転がして運搬した。



## ■今月の幹事会

出席者：市山・大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・酒井・佐野・高野・釣井・西野・矢澤・和田

1. 2018 年 1 月、2 月スケジュール・・・幹事会 1 月 5 日（金）
2. 澄川基本計画骨子作成・・・第 3 期 5 か年計画の総括（2012～2017）と第 4 期 5 か年計画（2018 ～ 2022）の素案作りの為のワーキンググループ立ち上げ  
メンバー：樫棒（まとめ役）、和田、佐野、大窪、清澤、市山
3. 親子森林教室・・・2018 年度のスケジュールチラシ、12 組の親子森しり隊募集中（HP 参照）
4. 2017 年度森林・山林多面的発揮機能対策進行状況・・・11/9 のモニタリング地の調査報告
5. <アーカイブス収載>  
\* 澄川第一樹木園の 5 年経過後の毎木調査
6. 澄川環境林、宅地課の対応と業者の動き・・・11 月 24 日法面埋め立て工事の現状報告
7. 協会創立 15 周年活動記録編纂に向けて・・・資料編の整理
8. 委員会報告・冬季セミナー  
12 月 13 日（水）森林総研 山口岳広先生・・・樹木の病気の話、  
1 月 18 日（木）札幌市防災協会 活動現場における安全講習（90 分）  
2 月 14 日（水）青少年科学館 守屋開先生・・・生き物と自然を伝える  
－小さな水性生物を取り巻く自然を中心に－  
3 月 14 日（水）北海道教育大学名誉教授・木村方一先生・・・地質の化石の話（仮）
9. その他  
・忘年会会計報告  
・2017 年 11 月会計報告

## ■活動履歴

月日	行事・活動地	参加数	参加数
11 月 16 日（木）	澄川	19	E-1 のギャップ地地拵え・冬期用ガンビ集め
11 月 21 日（火）	澄川	20	積雪 20cm・薪づくり概ね終了・中流木道杭打完了
11 月 24 日（金）	澄川	17	冬囲い・ネームプレート板作成(52 枚)
11 月 26 日（日）	澄川	11	B-4 区冬期整理伐対象木にテーピング
11 月 29 日（水）	澄川	14	中流木道完成(幅 170cm, 橋長 30m)・澄南小工作指導
12 月 2 日（土）	澄川	14	E-3 区伐採・カンジキ用材料の形成（200 本）
12 月 4 日（月）	澄川	18	第一樹木園生育調査終了・機械整理・小屋整理
12 月 6・7 日	北村温泉ホテル	21	忘年会
12 月 11 日（月）	ラルズビル	13	定例幹事会
12 月 13 日（水）	札幌エルプラザ	23	冬季セミナー(会員例会、樹木の病気の講演)
12 月 15 日（金）	澄川	20	活動納め